



(参考仮訳)

プレスリリース No.14/65
即時解禁
2014年2月23日

国際通貨基金 (IMF)
米国・ワシントン DC

**IMF クリスティーン・ラガルド専務理事:
G20 財務大臣・中央銀行総裁会議の成長のための行動計画に関する声明を歓迎**

国際通貨基金 (IMF) のクリスティーン・ラガルド専務理事は本日、オーストラリアのシドニーで開催されていた主要 20 カ国・地域 (G20) 財務大臣・中央銀行総裁会議の閉会にあたり以下の声明を発表した。

「最近数カ月で世界経済の成長は、先進国・地域が主な原動力となり力強さを増したものの、新興市場国・地域の金融市場及び資本フローの増大するボラティリティと先進国・地域の低インフレ率が、今後の大きな課題を突きつけている。より力強い世界経済の回復、すなわち持続的で健全な雇用創出をともなう回復を促進し、現存及び潜在的リスクを和らげるには、更なる措置と国際協力が必要である。

こうしたなか、G20 が今後 5 年間で全体の GDP を最低でも 2%、総額約 2 兆 2,500 億米ドルさらに増加させる措置を策定、実行することに合意したことを歓迎する。この目標は達成可能で、IMF が今回の G20 会議に提示した分析とも整合するものである。G20 が指摘したように、投資を支援し、貿易を拡大、そして競争を促進する措置が、より持続可能で力強い成長に不可欠となろう。

また、シドニー会合で G20 が、その波及的な影響をコントロールすることを支援する目的で金融政策措置を一貫して説明していくことを強く約束したことも重要である。世界金融の安定性を保護する一助として世界的な対話と意思疎通の改善は不可欠である。G20 各国はまた、デフレ及びインフレ圧力を管理するための必要措置を実施することにもコミットした。IMF はこうした努力を支援し、加盟国には必要であれば資金提供も含め、政策助言を行う用意がある。

G20は、IMFの2010年のクォータ及びガバナンス改革の発効で進展が見られないことに遺憾の意を示し、数カ月後にこの目標までの進捗状況を検証すると述べたことをお伝えする。我々IMFも同様に考えており、実行面で早急な進展が見られるよう強く望むものである。ワシントンDCで4月に予定されている国際通貨金融委員会(IMFC)の次回会合で、この問題をはじめシドニーで協議された多くの事案について協議を継続できることを期待している。

最後に、トニー・アボット首相、ジョー・ホッキー財務相、及びオーストラリア準備銀行グレン・スティーブンス総裁をはじめ、本会議の開催国であるオーストラリア当局に御礼を申し上げます。本会合では実効性ある生産的な議論を喚起する役割を果たされ、2014年を通し今後とともに仕事を遂行していくことを期待する」